

平成22年6月の解説（週間天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。沖縄・奄美では曇りの日が多くなりました。中旬は、はじめは西日本で高気圧に覆われ晴れる日がありましたが、その後は梅雨前線が本州の南岸に停滞したため曇りや雨の日が多くなり、九州南部では大雨となりました。北日本では、低気圧と高気圧が交互に通過し天気は周期的に変わり、沖縄・奄美は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は梅雨前線が本州付近に停滞し、東北地方から西日本は曇りや雨の日が多くなり、西日本の太平洋側を中心に大雨となった所がありました。北海道では前半は低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、後半は高気圧に覆われおおむね晴れて気温の高い状態が続きました。沖縄・奄美は湿った気流の影響のため曇りが広がりやすく、雨の降る日もありました。

月を通しての日照時間は、北日本と東日本では平年より多くなりましたが、沖縄・奄美ではかなり少なくなりました。降水量は西日本の太平洋側で平年より多くなり、6月の月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。沖縄・奄美では平年より少なくなりました。気温は、北日本では平年よりかなり高くなり、6月の月平均気温の最高値を更新した気象官署がありました。東・西日本では平年より高くなりました。

【6月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^(注)より1ポイント高い64%でした。中国地方では10ポイント低くなりましたが北日本と九州南部では6から7ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、関東甲信、北陸、九州南部地方で例年より0.5℃から0.7℃小さくなり、全国平均は例年より0.3℃小さい2.5℃でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、中国、四国、九州地方で例年より0.6℃から0.7℃小さく、全国平均では0.4℃小さい1.4℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報の利用にあたって】

8月は9月と並んで台風の発生数が多い月です。そのため、しばしば台風による大きな災害が発生します。昨年(2009年)の8月8日から11日にかけて、台風第9号の影響で九州から東北地方の広い範囲で大雨となり、各地で浸水害や土砂災害が発生しました。気象庁では昨年から5日先までの台風進路予報を行っており、週間天気予報にもこれを反映しています。山や海での夏休みを計画される際は、これらの情報を参考にするようお勧めします。